



SDGs&カーボンニュートラルに参画しよう

海山川の自然の恵みを守り育むまち

里山をまもる人たち

近年は、高齢化などで里山をまもる人が少なくなっています。
人が少なくなると、里山の木が伸びほうだいになったり、草がしげってしまったりしています。
そこで、里山の草かりや、木の手入れをしている団体があります。
この活動がいつまでも続くように、参加したり、会員として支援したりして、応援しましょう！

里山をまもることが貢献（こうけん）しているSDGs（エスディー・ジーズ）のゴール



①ゴール4/質の高い教育をみんなに

ハイキングや観察会（かんさつかい）で、自然や生きものについて楽しく学べるので、子どもたちの勉強にもなります。



②ゴール11/

住み続けられるまちづくりを

里山をきれいにすると、土砂くずれや山火事も少なくなり、安全で気持ちよく暮らせるまちになります。



③ゴール13/

気候変動に具体的な対策を

里山の木は、CO₂（二酸化炭素）を吸ってくれるので、地球の温度を上げるのを防いでくれます。

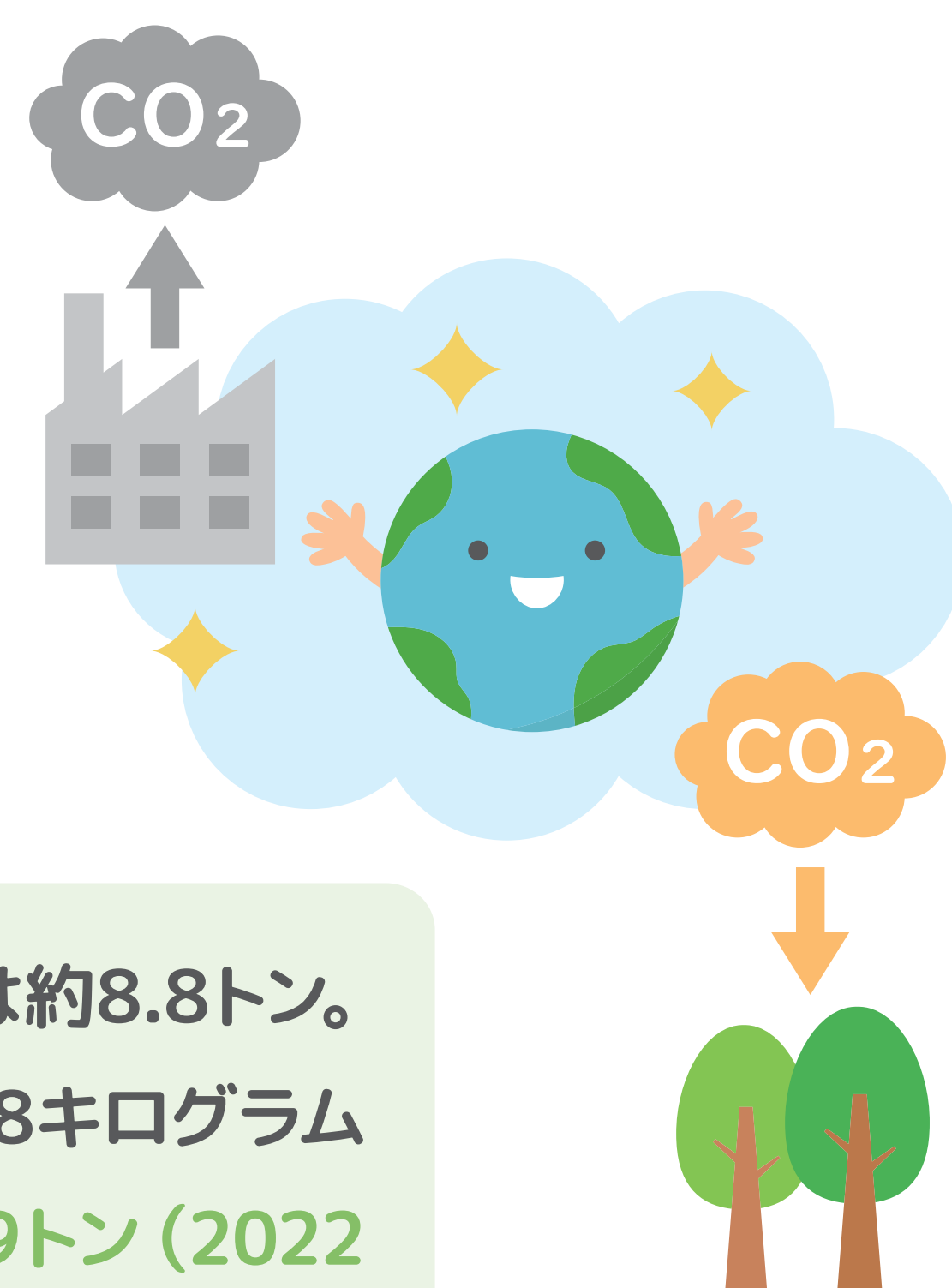


④ゴール15/陸の豊かさを守ろう

草や木が元気な里山には、たくさんの生きものが住んでいます。動物や虫、植物のいのちをまもることができます。

カーボンニュートラルへの貢献

植物は太陽の光と土から吸収した水、空気中のCO₂を使ってエネルギー（でんぷん）をつくり大きくなります。これを「光合成」といいます。光合成をおこなうとき、植物は、私たちが暮らしていくのに欠かせない酸素をつくり出します。里山の植物や木が元気に育つと、たくさんのCO₂を吸ってくれます。



たとえば

36～40年生のスギ1ヘクタールあたりが1年間で吸収するCO₂の量は約8.8トン。
そのスギが1ヘクタールに1,000本あるとすると、スギ1本あたり約8.8キログラムのCO₂を吸っていることになります。日本では、1世帯が出すCO₂の量は約2.59トン（2022年度）で、約294本分のスギが吸収する量と同じくらいです。元気なスギの森をまもっていかねばならないですね。

参考：林野庁、環境省

わたしたちにできること

里山をまもる団体のハイキングに参加したり、草かりを手伝ったり、会員として会費を払い活動を支援することで、自然をまもることができます。そして、それが地球温暖化を防ぐことにもつながるのです。自然といっしょに生きること。木や生きものを大切にすること。それは、わたしたちの未来をまもることにもなります。

